

2025 年度 教育課程連携協議会 議事録

1. 開催概要

項目	内容
日時	2025 年 11 月 5 日 (水) 15:00～17:00
場所	神田キャンパス 3 階会議室（オンライン併用）
根拠	専門職大学院設置基準 第 6 条の 2 本学外部評価委員会規程 第 1 条第 2 項
議長	竹内 貞雄 学長（規程第 6 条により委員長）
審議事項	(1) 産業界等との連携による授業科目の開発・開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項 (2) 産業界等との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

2. 出席者

氏名	所属・役職	設置基準第 6 条の 2 第 2 項の区分	出席方法
米谷 強	日本金型工業会 副会長	第 2 号（職業団体の関係者）	対面
羽田 雅一	MIJS 理事	第 2 号（職業団体の関係者）	対面
小山 修	日立市 産業経済部長	第 3 号（地方公共団体の職員）	オンライン
長沢 伸也	早稲田大学 教授	第 4 号（学長等が必要と認める者）	対面
山代 佳子	トトカ・グリーン株式会社 代表取締役	第 4 号（学長等が必要と認める者）	オンライン
竹内 貞雄	学長（委員長）	第 1 号（学長等が指名する教職員）	対面
小田 恭市	学長補佐	第 1 号（学長等が指名する教職員）	対面
清水 弘	専門職大学院 研究科長	第 1 号（学長等が指名する教職員）	対面
三宅 将之	副研究科長・学務長	第 1 号（学長等が指名する教職員）	対面

オブザーバー：林 祐司 総務部長、萬代 憲司 広報イベント・学生募集合同部会長、五十嵐 博一 教務・学生支援合同部会長

3. 報告事項

竹内学長の挨拶と委員紹介の後、清水研究科長が 2025 年度自己点検の概要を報告した。教育課程に関わる主な内容は次のとおり。

(1) 前年度の意見への対応

- IT・デジタル科目を中小企業経営・事業創造コースに 2 科目、中小企業診断コースに 3 科目置いている。
- 2026 年度は授業での生成 AI の実践活用を強め、シラバスに明記する。

- ・生産管理・品質管理は、診断コースの実習（製造業を含む5回）と、希望者向けの修了生企業での事例検討会で扱っている（参加者：2025年度14名）。
- (2) **中長期ビジョン（2025～2030年度）の進捗**
- ・修了生企業3社と「中堅中小企業における人事の仕組み構築」プロジェクトを実施した。
 - ・金融機関（信用金庫）との包括提携に基づく連携を進めている。
 - ・修了生向けに、退任教員等6名による「復刻授業」を始めた。
- (3) **大学基準協会の認証評価**
- ・基準に適合と認定された（2025年4月～2030年3月）。
 - ・検討課題「本協議会の構成員の過半数が学外者でない」に対し、今回から学内委員を4名とした。
- (4) **2024年度 修了時アンケート**
- ・学びと負荷のバランスは、回答21名中19名が「大変満足」「満足」。
 - ・課題のフィードバック不足、実習評価のばらつき、秋冬の課題負荷の集中が指摘された。
 - ・対応として、課題フィードバックの徹底、実習評価基準の周知、学期別の課題一覧の提示を行った。メンター制度は2026年度から新方針とする。
- (5) **新任専任教員**
- ・田中道昭教授、小笹文准教授が着任し、マーケティング系科目を担当する。
- (6) **収容定員の増員（重点項目）**
- ・2027年度から収容定員を30名から50名に増やす認可申請を、2026年3月に提出する予定。
 - ・あわせて、実習の全コース導入やメンター制度の見直しなど、教育成果を高める計画を示した。

4. 審議事項(1) 教育課程の編成に関する意見

主な意見

- ・現場の声を聞き、討論で課題を解決できる経営人材の育成が期待される。
- ・構想・設計や技術の組み合わせで、付加価値を高められるものづくり人材が求められる。
- ・自治体でも、スタートアップと中小企業をつなぐ生成AI活用の取組が始まっている。
- ・一方で両者には理解の隔たりがあり、橋渡しできる人材が必要である。
- ・「ものづくり重視」だけでは募集の訴求力が弱い。定員増には差別化と価値提案の明確化が求められる。

研究科の対応方針

- ・スタートアップと中小企業をつなぐ人材の育成を、MOTの期待領域として取り組む。
- ・中小企業の経営者と教員が協働し、価値提案と検証を重ねて人材を育成する。
- ・本学の特色を前面に出し、従来にないMOTを目指す。

5. 審議事項(2) 教育課程の実施と評価に関する意見

主な意見

- ・現場のフィールドワークを取り入れた実習は有意義である。成果が現場に定着したかの確認も大切である。

- ・ 在学中は仕事と学習の両立で負荷が高い。修了後も学べる研究会は有意義である。
- ・ 修了生の生成 AI への関心は高く、活用促進が期待される。
- ・ 修了生向けの「復刻授業」は評判が高く、継続が期待される。
- ・ 中長期ビジョンのイニシアティブと外部連携の進め方について確認があった。

研究科の対応方針

- ・ 修了生企業での実習は、事後のフォローまで行っている。
- ・ イニシアティブは、状況に応じて見直しながら運営する。
- ・ 外部連携は「教育」「研究」「経営支援」を軸に修了生企業と進め、信金とも具体策を検討する。

以上